

- 1) 平均皮膚温は女兒が学生にくらべてやや高温であり、男児は女兒に比し、更に高温を示す。
- 2) 下腿部では、高気温の場合は三者殆んど差がなく低気温では、女兒の方が学生よりもやや高く、男児はこれよりも更に高温を示した。
- 3) 身体軀幹部では、1) とほぼ同様の差異があり、その他の測定部位では著しい差異はみられなかった。

15. 幼児の皮膚温について

東京学芸大 渡辺 ミチ

○木名瀬美智子

1. 小児の皮膚温分布、季節による変動等を知ること、その体温調節機能を知り、被服を考慮する上に重要なことであると考え。そこで今回は、幼児の皮膚温その他について測定を行い、その季節的変動、男女差を明らかにし、また成人との比較考察を試みたので報告する。

2. 東京学芸大学附属幼稚園児男女各5名、なお比較のために女子学生5名を対象に、昭和35年9月から36年7月にわたり、隔月（環境気温 9°C , 12°C , 18°C , 21°C , 24°C , 29°C ）に測定を行った。

3. (1)皮膚温の季節的変動

測定部位中年較差の多い下腿部では、女兒の年較差が女子学生よりも少なく、男児は女兒よりも更に少ない。年較差の少ない上腹部では何れも 5°C 以内の差であり、なお幼児の年較差は女子学生に比し比較的少なく、男児の方が女兒よりも更に少ない。

(2)各測定部位における皮膚温の比較